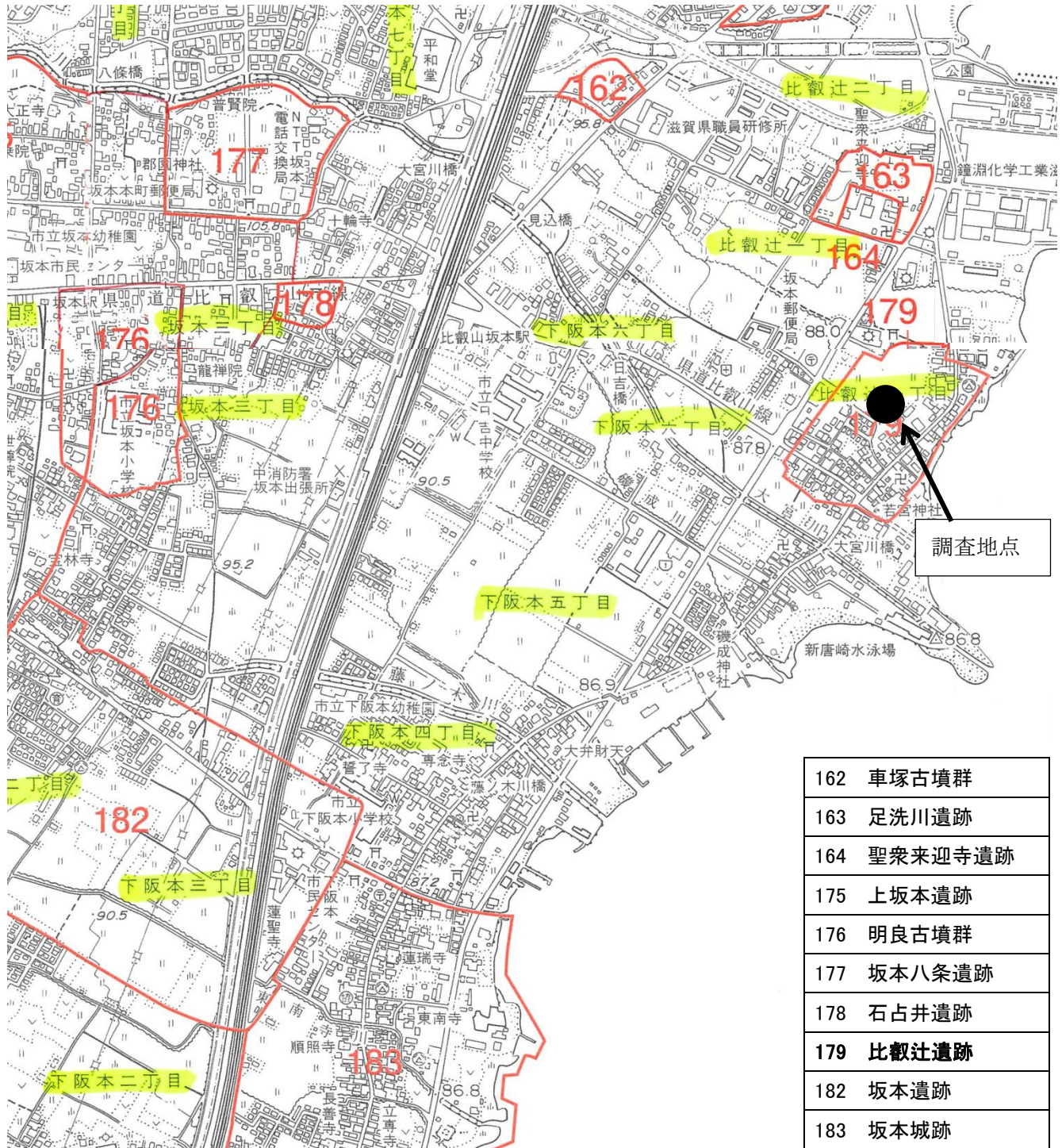


ひえいつじ

比叡辻遺跡発掘調査現地説明会資料

大津市市民部文化財保護課



調査場所 大津市比叡辻一丁目
 調査面積 1823.98 m²
 調査原因 宅地造成
 調査期間 令和4年1月～9月末（予定）
 主な時代 13世紀～15世紀（鎌倉～室町後期）



青磁香炉

<調査成果の概要>

比叡辻遺跡の範囲内では、これまで本格的な発掘調査が行われていませんでした。今回の調査は、宅地造成工事に伴うもので、道路部分を調査対象としています。面積が広大であるため、5つの区に分けて調査を行っています。

主な検出遺構と出土遺物

【1区】(調査終了)

検出遺構：溝 石組み溝 石組み井戸

出土遺物：青磁香炉 瓦質土器火鉢・風炉 天目茶碗 石臼



① 1区 石組み溝と井戸



② 1区 全景(東から)

【2区】(調査終了)

検出遺構：溝 礎石

出土遺物：土師器皿 青磁皿



③ 2区 全景(東から)



④ 2区 土師器集積部

【3区】(調査終了)

検出遺構：土間敷き遺構 礎石立ち建物

石組み溝を伴う礎石立ち建物

埋甕遺構 石組み遺構 溝

出土遺物：土師器皿 青白磁梅瓶 陶器すりばち播鉢

陶器甕 石鍋



⑤ 3区 石組み溝を伴う礎石立ち建物



⑥ 3区 南半全景
(石組み遺構、土間敷き遺構)



⑦ 埋甕遺構

【4区】(現在一部調査中)

検出遺構：土間敷き遺構

礎石立ち建物 溝

出土遺物：土師器皿 陶器播鉢すりばち

【5区】(現在調査中)

検出遺構：礎石立ち建物

出土遺物：土師器皿



⑧ 4区 礎石立ち建物

＜調査成果のまとめ＞

今回の調査で検出された遺構は、出土した遺物の年代から、およそ13世紀初めから15世紀の後半のものとみられます。特に1区と2区の東端の琵琶湖に近い部分と3区、つまり、調査地のすぐ琵琶湖側を通る古い道寄りの場所で比較的集中して建物が検出されています。また、4区の西半でも土を盛った上に礎石立ち建物が検出されており、人口が増えて土地が必要になり、元々居住地でない低湿地に改良工事をして、住む場所を確保していたとみることができます。

出土した遺物をみると、土師器の皿や瓦質の火鉢などの多くの日用品のほかに、滑石製の石鍋や青白磁めいびんの梅瓶、茶の湯の道具である風炉ふうろや天目茶碗、香道で用いる香炉などがありました。当時は、茶の湯や香合わせの文化は貴族層を中心とする雅な遊びであったと考えられます。つまり、一般の生活には贅沢なもので、本地域に文化水準の高い人が住んでいたのではないかと思います。

比叡辻をはじめとした坂本地域は、古文書などから非常に栄えていたと言われてきました。今回の調査成果は、これらを物語る物的証拠の一端とみられます。

<比叡辻遺跡の概要>

比叡辻遺跡は、比叡山延暦寺の麓、琵琶湖の湖岸に位置しています。北には、平安時代に恵心僧都源信が創建した「^{しょうじゅらいこうじ}聖衆来迎寺」があり、南に行くと明智光秀が築城した「坂本城跡」があります。また遺跡範囲内には、琵琶湖に沿って南北に江戸時代の北国海道が通っており、道沿いには民家のほか、神社や寺が点在しています。比叡辻遺跡での本格的な発掘調査は、今回が初めての調査になります。

今回の調査に関連するこの地域の特徴の一つとして、琵琶湖の船で運ばれた荷をこの地域の港に陸揚げしており、平安時代の後期ごろには、その荷物を馬や荷車で京都などへ運ぶ「^{ばしゃく}馬借」・「^{しゃしゃく}車借」といわれる運搬業者が多く住んでいたようです。流通の拠点として発展していたとみられています。

鎌倉時代には、琵琶湖の湖上交通の中心が下阪本の三津浜(戸津・今津・志津)になったとされています。これにより、坂本地域の流通の拠点としての重要性が増し、延暦寺が堂舎修復のため通行料を取る(坂本七ヶ関)などして湖上交通を掌握するようになりました。京都へ荷物を運ぶ「^{やまなかごえ}山中越」もこの頃確立されたとみられます。当地域の馬借たちもその強い経済力の下で活動するようになりました。

室町時代になると、三代将軍足利義満の時代の史料には、馬借や車借のほかにも「^{といまる}問丸」と呼ばれる問屋や「^{どそう}土倉」と呼ばれる金融業者もみられ、坂本から比叡辻の地域は、日吉大社や延暦寺の門前町として、また流通の中心地として経済的にさらに豊かな地域となっていたと思われます。

また、応仁元年(1467)に京都で応仁の乱が起こったことで、京都の寺や神社、そして貴族たちが、都から戦火を逃れて坂本や比叡辻界限などに避難していました。そのため、比叡辻だけでなく坂本地域全体で人口が増え、より町が発展していたと考えられています。



遺構配置図 (模式図)